

本堂屋根裏の報告

合計で二ヶ月近く屋根裏や裏庭に罫を仕掛けて様子を見ましたが、何も捕獲されず、その後は天井裏に動物の気配も感じなかったので、先月末に出入り口と思われる大きな隙間二カ所を含む、本堂の妻側四隅を板やセメントで塞ぐと共に、屋根裏にあつた動物の汚物を清掃し、屋根裏全体を噴霧消毒して貰いました。回収

した汚物はバケツ三杯もあり、長期間にわたって動物が入り込んでいたようです。おかげさまでスッキリしました。有難うございました。



實相寺 花園会報

令和三年
三月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第143号

お寺の掲示板

この道歌は一休禅師の作と伝えられ、二〇三種類よく似た歌が流布していますが、言わんとすることは皆同じです。

極楽は遙か彼方の西方浄土や東方浄土だけでなく、我が身にこそあるのだ、と東西南北をもじって説いています。今月はお彼岸もありますので、ご先祖の供養だけでなく、お互いに自らの心を調えましょう。

極楽は

西にもあれば

東にも

また道々がせ

みなみにある

一休禅師

お釈迦さまの伝記・仏伝について③

前回、初期の仏伝はお釈迦様が菩提樹の下で悟りを開いた時から始まっていると述べましたが、実は仏伝に依ってお釈迦さまの悟りの内容が異なります。最も一般的な仏伝では無明から始まり老死で終わる、いわゆる「十二支縁起」と言われるものを悟ったと説かれていますが、その他にも異なる内容を説くものが幾つも存在します。

その理由は、悟りというのは心の状態ですから、「心を言葉で、それもひと言で説明することなどは絶対出来ない」と佐々木先生は仰っています。では悟りの内容は説明出来ないのか？というと、それはそうでもなくて、「多面的、多角的に言葉を尽くして説明すれば、100%は伝わらないにしても、次

第に人に伝わっていくのではないかと仰っています。

「恐らくはお釈迦様も自分の悟った内容を弟子に語る時、色々な形で語ったと思われます。ですから定まらない。聞いた人達のそれぞれの思いがお釈迦様の言葉を違った形で伝えていったために、多面的な情報になって残っているであろう。」とのこと。

それでは、お釈迦様の悟りは判らないのか？というと、それはお釈迦様の悟りを上から俯瞰するように定義しようとしても難しいでしょうが、お釈迦様が残された仏教という宗教集団がその後どの様な活動をし、どの様な修行をしたかという所から遡って、お釈迦様の悟りを理解することは出来る筈で、それが唯一の方法だと先生は仰います。

今日でも仏教には確固たる一つの世界観と生きるべき目的が示されていて、それこそがお釈迦さまの悟りの内容だと言えますが、ではお釈迦様がいないければこの世に存在しなかった世界観とは何か、と追求していくと、最終的には「諸行無常・諸法無我・一切皆苦」は「諸行無常・諸法無我・一切皆苦」に行き着くのだそうです。「諸行無常」とは、この世の中の全ての存在は移ろい行くということ、「諸法無我」とはその中のどこにも私という実在はないということ。

「自分自身を救うのは自分自身である」というのはお釈迦様の言葉ですが、佐々木先生は「諸行無常・諸法無我が示しているのは、自分の外に、この世界に救済を求めても、それは適わないのだということ」だと仰っています。

こうした考え方はそれまでのバラモン教（ヒンズー教）には全く見られなかった厳しい世界観です。私達の人生は無常・無我の上に成り立っている。だから苦しいのだ。でもその苦しみから逃れる方法はある。それは自分の心を変えて、本能的な苦しみの原因を取り除いて涅槃にいく方法です。

ですからお釈迦様の悟りが何であったか？と問われれば、諸行無常・諸法無我・一切皆苦がそのベースになるのは間違いないですが、お釈迦様の教えは単なる理窟ではなく、その実践も含めての悟りであるの
で、仏教とは何かといえ、**「仏法僧」**全体であると言えるのです。



佐々木先生の動画